

議 事 概 要

1 会議名	第2回長野都市圏総合都市交通計画委員会
2 日 時	平成28年2月1日(月) 13:30~15:30
3 場 所	県庁議会棟3階 第1特別会議室
4 出席者	学識経験者：久保田委員長、高瀬委員、藤居委員、益山委員、柳沢委員 国土交通省：井上委員(代)、新階委員、近藤委員、丸山委員(代)、護摩堂委員、田村委員、吉澤委員(代) 長野県：手塚委員(代)、臼田委員、猿田委員(代)、竹内委員、田中委員 市町：羽片委員、滝沢委員、山岸委員、松澤委員、南澤委員、畔上委員、松木委員、森委員 交通事業者：青山委員、井原委員、倉島委員、石黒委員(代)
5 資 料	第2回長野都市圏総合都市交通計画委員会 次第 第2回長野都市圏総合都市交通計画委員会 出席者名簿 資料① 本編 資料② 資料編 意見様式

1 開会

2 議事（質疑応答）

(1) 第1回委員会における意見と対応について（資料①、②）

委員 長：第1回委員会における意見と対応について、ご意見あるか。

→特になし

(2) 予備調査の結果について（資料①）

近藤委員：お願い葉書の事前送付により回収率が向上とあったが、年代別の差はあったか。

→**事務局**：高齢者とそれ以外で回収率を集計してみたが、大きな違いは見られなかった。

近藤委員：予備調査の回収率は15~34歳がよくない。その年代について、お願い葉書の有無で回収率が異なるか知りたい。分かったら教えて欲しい。

→**事務局**：整理する。

委員 長：お願い葉書を出すと効果があることが分かったので、本調査での実施を検討願いたい。

(3) パーソントリップ本調査について（資料①）

柳沢委員：65歳以上を対象とした付帯調査は、記入例をつけた方がよいのではないか。また、問2

(1)で「通院や買い物で最もよく利用する交通手段」をきいているが、実際には目的地まで複数の交通手段を乗り継いで行く場合もある。全ての手段か、代表交通手段を回答してもらおうなど、明確にした方がよい。問4(2)の住まいに関する質問は「良い」という

選択しかないが、「良い・悪い」で選択できる方が分かりやすい。最後に、65歳以上の方が「生きがいを持って外出したい、行きたい場所」を聞く設問があってもよいのではないか。

委員長：付帯調査の記入例については、恐らくトリップをきく箇所に必要というご意見かと思う。25、26ページのアンケートについても同様と思う。

→事務局：予備調査では回答しづらかった箇所をきいており、付帯調査ではさほど問題なかった理解している。全体の枚数を減らしたいので、記入例は省略したいと考えている。一方で、PT補完調査の都市圏来街者を対象とした調査と、公共交通利用者を対象とした調査は、記入例の添付について検討したい。調査票の質問内容は、検討させてもらいたい。

委員長：高齢者の交通手段は大事なので工夫が必要である。

近藤委員：65歳以上を対象とした付帯調査の問1の交通手段をきく設問で、選択肢に「自動車（自分で運転）」、「自動車（送迎してもらう）」とあるが、運転免許の保有状況と関係付けてきく必要があるのではないか。

→事務局：検討したい。

委員長：別途、「普段運転しているのかどうか」をきく設問があってもいい。

高瀬委員：交通と暮らしの意識調査（付帯調査）の問3（2）で「バスを利用しない理由」について、「荷物が多いから」や「乗り継ぎが悪いから」といった選択肢があってもよいのではないか。また、65歳以上を対象とした付帯調査の問3（1）の選択肢には、「免許は既に返納した」を追加してもいい。同調査の問2（1）で、買い物の行先の選択肢に「宅配や通信販売、ネットショッピング」があるのは違和感がある。観光地来訪者の交通行動等の調査だが、観光バスでやってきて現地でバラバラに行動する団体客もおり、各拠点100サンプルくらいだと、そのような団体客ばかりを調査対象にしてしまう恐れがあるので、調査時には考慮されたい。

→事務局：付帯調査の質問項目と、観光地来訪者調査の方法については、意見をもとに検討したい。

藤居委員：付帯調査（交通と暮らしの意識調査）の問5（3）や（6）は質問内容が曖昧である。「住み替え」についてはもう少し現実的な理由が示されている方がいい。「住み替え」は回答者属性や費用が関係してくる。どのような条件が揃えば、「まちなか等への住み替えが可能」なのかがもっと分かるようになるとうい。

委員長：問5（6）で書いてあるように、自分の暮らし方や住まい方で「協力」する人はあまりいない気がする。どのような「条件」なら引っ越してもいいのか、聞き方を考えてもよい。「協力する」という言葉で設問の意図を汲み取れない人もいるかもしれない。

→事務局：検討したい。

益山委員：観光地来訪者の交通行動等の調査について、「個人旅行」なのか、「団体旅行」なのかを聞く設問があってもよいのではないかと。問5で「同行人数」をきいているが、団体旅行客は通常把握していないと思うので工夫した方がよい。問8の設問文は、冒頭を「今回の旅行についてお尋ねします」とすれば、今回の旅行で訪問する観光地についても把握できる。番号を選ぶ設問は調査票の最後に回した方がよい。問8にある観光地の1から12はどのように選んだのか。来訪者の上位であれば、県内なら「白馬」や「志賀高原」、また新幹線利用で「県外」もありえるのではないかと。問9の選択肢には、「交通標識の整備」も重要なので加えたらどうか。最後に、この調査でインバウンドを考慮しないのなら、対象を日本人に限定することを明確にした方がよい。

→事務局：「個人旅行」なのか「団体旅行」かを聞く設問を設けたい。問8は主要な観光地を挙げている。観光地のアドバイスがあれば追加を検討したい。

委員長：同調査の問9の選択肢をみると、どれもやった方がよい内容である。回答できる数を限定した方がよい。

益山委員：長野都市圏でP&Rの取り組みを進めているのであれば、26ページの公共交通利用者アンケートで、サービス向上の設問の選択肢に、「駅周辺の駐車場整備やその利用に関する項目」を入れてもいいのではないかと。バス利用者も同様で、「自家用車を駐車してバスを利用」するような、駐車場の整備の項目があってもよい。

井上委員：web調査は、回答途中で諦めてしまう人が多くいる。設問の全体ボリュームが分かるようにwebサイトの工夫をした方がよい。国土交通省本省では、PTを使いやすくする方法を検討している。例えば、モバイル空間統計を使ってODを時点更新する。現在PTを調査しても、5年後に社会情勢が変わって使えないODになる可能性がある。その場合に、モバイル空間統計を使ってODを補正する。また、公共交通のサンプルが少なくなることが想定されるので、例えば熊本都市圏では地元の交通事業者に協力してもらい、駅間ODやバス停間ODデータを提供してもらい、それを使って全体のOD表を補正した。もし必要なら情報共有させてもらいたい。

→事務局：webでの回答方法は不可欠と考えており、回答しやすさを心がけたい。本省には検討過程で様々ご指導をお願いしたい。

新階委員：携帯電話の基地局データを用いた人口流動統計が開発されている。現在はODだけでなく経由地も把握できる。この統計のメリットは、情報量が大量であり、回収率の心配がなく、365日取得できるため季節変動もみることができ、また全国との比較もできる。交通手段に囚われないので、自動車だけでなく高齢者の歩行経路なども把握できる。そうした厚みのあるデータが1、2ヶ月で速やかに取得できる。ただ、現在の技術段階では、目的

や手段が直接把握できないことや、位置情報が不安定であること、コストが流動的などの課題がある。活用についてはぜひ検討してもらいたい。また、付帯調査では「潜在的にどのような移動がしたいのか？」を聞けるとよいと思う。

→事務局：移動に関する潜在的な意識をどのように聞くのかについては検討したい。

委員長：ニーズをきく場合は、高齢者や観光客が主な対象になるのではないかと。ぜひ検討してもらいたい。

柳沢委員：P T調査の個人票だが、「場所」は何番目まで用意するのか。観光だったら10番くらいまで行くので、できるだけ欄は設けてもらったほうがよい。また、吸収トリップはどのように配布するのか。帰宅は最後に書くところがあるが、吸収トリップの場合混乱しないか。

→事務局：調第2回P T調査や予備調査の結果から、8番目まであれば十分であることを確認した。

→事務局：最後、自宅とは別の場所に行くことを吸収トリップと呼んでいると思うが、この書き方は工夫したい。自宅に戻らない人は注意書きで対応できればよいと考えている。

委員長：P T調査の対象は都市圏内に住んでいる人なので、だいたい自宅に帰るといふことかと思う。

青山委員：補完調査をみると、長野駅で調査票を配布するとあるが、調査の日数や時間帯、改札を入れる時か出る時か、対象者が分かれば教えてほしい。配布する時間帯により、駅利用者の属性は変わる。26ページの公共交通利用者アンケートの調査票をみると、例えばこれを長野駅で受け取ったときに、問4で長野駅をどこに書けばよいのかが分かりづらい。そのまま出かけるのであれば降車駅を長野駅とすればよいが、長野駅や飯山駅など、行った場所が分かるように書けるようにしておいた方が分かりやすい。また、新幹線や特急の利用者は何回か乗り換えて来ているが、東京や名古屋のまちなかの駅名は重要ではないと思う。調査の仕方を工夫した方がよい。

→事務局：長野駅での調査だが、全ての駅を同じ日で調査することを考えており、改札口の外で待ち受けして調査する予定。調査票は改良を検討したい。

益山委員：個人的な経験に基づく意見だが、長野県では親を介護している世帯が多いと思う。自宅と親の家との往復が生活スタイルの1つになっているのではないかと。P T調査の調査票で、複数の家を行き来して暮らしている人も考慮してよいのではないかと。

→事務局：予備調査では「上記以外の場合」として、実家や生家の回答があった。その点については記述で回答できるようにするか、あるいは目的として1つ起こしてもいいのかもしれない。

委員長：それは考えられるかもしれない。他の都市圏ではどうしているのか。

→井上委員：他の都市圏でそのような事例を聞いたことはない。ただ、県の事情で追加も考えられ

る。

委員長：他の都市圏と比較できなくなるのは問題だが、そうしたことを考慮したうえで検討してもいいのではないか。

井原委員：26 ページの公共交通利用者アンケートの間6についてだが、この結果からどのように次に繋げていくのか。「何があれば鉄道やバスを利用するのか」を聞いたほうが良いのではないか。

→**事務局**：問6の聞き方を検討したい。

委員長：次に「実施すべき施策」が判断できるような質問にしてもらいたい。

羽片委員：計画策定に向けた今後の検討体制だが、都市圏内の各地域で事情が異なるため、分科会設置の考え方を教えてほしい。

→**事務局**：それぞれ地域特性があるため、例えば建設事務所単位で検討すべきかなど、分科会の設置について関係市町と検討したい。

委員長：以上で意見が出尽くしたと思う。資料の詳細をみて更にご意見があるかもしれないが、直接事務局にお願いしたい。

3 その他

事務局：本日の資料について追加の意見があれば、事前送付した意見様式に記入してもらい、2月10日までに送っていただきたい。今年度の委員会は今回で終了し、次回は10月を予定している。案内は開催の2ヶ月前の発送を予定している。

以上